富良野市の健全化判断比率（平成２０年度）

１　健全化判断比率の状況

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>富良野市</th><th>早期健全化基準(市町村)</th><th>財政再生基準(市町村)</th></tr>
<tr><td colspan="2">実質赤字比率
・一般会計等の実質赤字の比率</td><td>―
(赤字なし)</td><td>財政規模に応じ 11.25～15%
（富良野市：13.84%）</td><td>20%</td></tr>
<tr><td colspan="2">連結実質赤字比率
・全ての会計の実質赤字の比率</td><td>―
(赤字なし)</td><td>財政規模に応じ 16.25～20%
（富良野市：18.84%）</td><td>40%</td></tr>
<tr><td colspan="2">実質公債費比率
・公債費及び公債費に準じた経費の比重を示す比率</td><td>13.2%</td><td>25%</td><td>35%</td></tr>
<tr><td colspan="2">将来負担比率
・地方債残高の他一般会計等が将来負担すべき実質的な負債を捉えた比率</td><td>108.8%</td><td>350%</td><td>―</td></tr>
<tr><td rowspan="5">公営企業における資金不足比率</td><td>水道事業会計</td><td>―
（資金不足なし）</td><td rowspan="5">20%</td><td rowspan="5">―</td></tr>
<tr><td>ワイン事業会計</td><td>―
（資金不足なし）</td></tr>
<tr><td>公設地方卸売市場事業特別会計</td><td>―
（資金不足なし）</td></tr>
<tr><td>公共下水道事業特別会計</td><td>―
（資金不足なし）</td></tr>
<tr><td>簡易水道事業特別会計</td><td>―
（資金不足なし）</td></tr>
</table>

2　健全化判断比率における各指標について

（1）実質赤字比率

（千円）

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額（△147,434）}}{\text{標準財政規模※（7,659,024）}} = \triangle 1.92\%$$

（負の値は黒字を示す）

標準税収入額　3,009,182
普通交付税額　4,379,045
臨時財政対策債発行可能額　270,797

（2）連結実質赤字比率、資金不足比率

（千円）

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計･特別会計の実質収支、企業会計の資金不足(剰余)額の合計（△1,545,743）}}{\text{標準財政規模※（7,659,024）}} = \triangle 20.18\%$$

（負の値は黒字を示す）

標準税収入額　3,009,182
普通交付税額　4,379,045
臨時財政対策債発行可能額　270,797

※標準財政規模

自治体が標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模。本比率算出においては臨時財政対策債発行額を含む。

（３）実質公債費比率

３ヵ年平均値：13.2%（平成 18 年度：13.7%、平成 19 年度：13.1%、平成 20 年度：13.0%）

参考（下記数式は平成 20 年度）

（千円）

①公債費充当一般財源額	③公営企業の地方債償還に充てた繰出金	④組合等の地方債償還に充てた負担金	⑤公債費に準ずる債務負担行為	⑥一時借入金利子		⑦災害復旧費等に係る基準財政需要額	⑪事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	⑫事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費（準元利償還）	⑬災害復旧費等に係る基準財政需要額(準元利償還)	⑮密度補正により算入された準元利償還金
1,348,893	+ 391,786	+ 148,625	+ 57,552	+ 0	－	(614,447	+ 223,984	+ 203,836	+ 44,779	+ 8,851)

$$\frac{1{,}348{,}893 + 391{,}786 + 148{,}625 + 57{,}552 + 0 - (614{,}447 + 223{,}984 + 203{,}836 + 44{,}779 + 8{,}851)}{\text{標準財政規模（7,659,024）} - (614{,}447 + 223{,}984 + 203{,}836 + 44{,}779 + 8{,}851)} = 12.96576\%$$

標準財政規模（7,659,024）

標準税収入額　3,009,182
普通交付税額　4,379,045
臨時財政対策債発行可能額　270,797

⑦災害復旧費等に係る基準財政需要額	⑪事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	⑫事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費（準元利償還）	⑬災害復旧費等に係る基準財政需要額(準元利償還)	⑮密度補正により算入された準元利償還金

（４）将来負担比率

（千円）

地方債現在高	債務負担行為に基づく支出予定額	公営企業債等繰入見込額	組合等負担等見込額	退職手当負担見込額	3セク等の損失補償負担見込額	―	充当可能基金	充当可能特定歳入	基準財政需要額算入見込額

$$\frac{11{,}877{,}716 + 336{,}794 + 5{,}258{,}619 + 1{,}080{,}489 + 3{,}322{,}547 + 51{,}492 - (1{,}806{,}660 + 2{,}696{,}879 + 10{,}279{,}548)}{\text{標準財政規模}(7{,}659{,}024) - \text{算入公債費等の額}(1{,}095{,}897)} = 108.8\%$$

標準税収入額　3,009,182
普通交付税額　4,379,045
臨時財政対策債発行可能額　270,797